

令和2年度農業後継者特別支援事業

事業主体名 鹿児島県立農業大学校農学部野菜科

1 目的

ピーマン栽培では株元を加温することで増収することが実証されている。また、福岡県林業試験場の研究では、竹チップに米ぬかを混合した竹チップ資材を促成ナスの畝上に設置すると、高い発酵熱により地温が上昇するとともに、11月中旬から5月上旬までの商品果収量が増加するという研究成果が報告されている。

そこで、県内の有用資源である竹を粉砕した竹チップ堆積された場合に生じる発酵熱を、促成ピーマンの株元加温の熱源として活用し、生育、収量に及びず影響について調査研究を行う。

また、同様にミニトマトでも実施する。



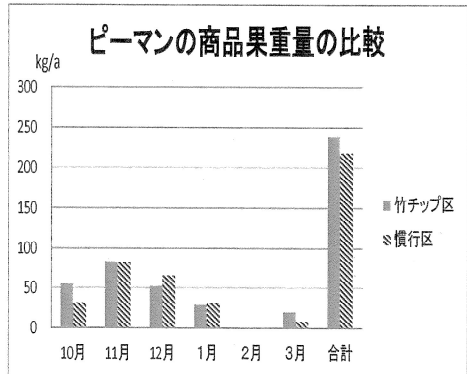
マルチ下に設置した竹チップ

2 実施状況

(1)ピーマン栽培での竹チップバック設置の実施

11月2日午前6時の畝5 cm 下の地温は、竹チップ区が慣行区に比べ約2℃高く、竹チップを設置することで地温が上昇することを確認できた。

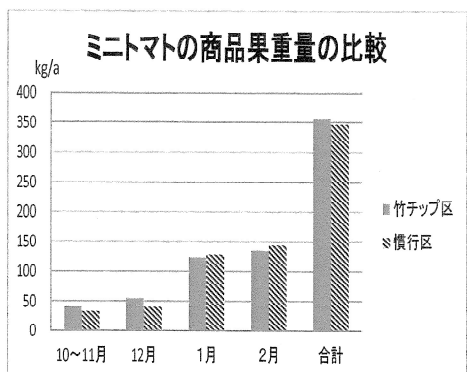
10～3月の商品化重量は竹チップ区は 239kg/a、慣行区は 219kg/aであり、竹チップ区が1割弱多かった。ピーマン栽培では増収効果があると推察される



(2)ミニトマト栽培での竹チップバック設置の実施

11月3日午前8時畝5 cm 下の地温は、竹チップ区が慣行区に比べ約2℃高く、竹チップを設置することで地温が上昇することを確認できた。

10～3月の商品化重量は竹チップ区は 357kg/a、慣行区は 347kg/aであった。ミニトマト栽培では増収効果は判然としなかった。



3 今後の課題、取り組み  
経済性の検証